

第 38 回生命の起原および進化学会
学術講演会に参加して
横浜国立大学大学院 工学府 河合 純
Graduated School of Engineering of Yokohama
National University
Jun Kawai
kawai-jun-jy@ynu.ac.jp

2012 年 3 月 14 日から 16 日、九州大学にて開催された生命の起原および進化学会は、私にとって初めての博多で 2 回目の参加になりました。今回参加できたことは私にとってとても貴重な体験になりました。私は、模擬タイタン湖における化学進化に関する研究について口頭発表いたしました。参加した当初は、ポスター発表とっていて、当日のぎりぎりまでパワーポイントを修正して頂いた小林憲正先生にはこの場を借りて、心から感謝をいたします。また、適切なアドバイスを頂いた金子竹男先生、大林由美子先生、Pierre de Marcelles 博士、Palash Kumar Sakar 博士に御礼を申し上げます。

タイタンは土星最大の衛星で窒素やメタンの大気を持ち、エネルギーとして紫外線、土星磁気圏に捕捉された電子、宇宙線などのエネルギーにより多様な有機物ともやの生成が観測されています。カッシーニ=ホイヘンス探査により、タイタン表面の平均温度は 93.7K で、液体エタンなどからなる湖沼の存在が明らかとなり、また地下にアンモニア水が存在することが示唆されました。また、種々の地上模擬実験により、模擬タイタン大気から炭化水素、ニトリル等の有機物や、高分子態有機物「ソーリン」が生成することが確認されています。模擬実験で生成されたタイタンソーリンを用いて、自己集合体が生成されることを調べました。

今回の実験するにあたり、機会の提供を頂いた Bishun Khare 博士、Chris McKay 博士そして実験のサポートをしてくれた Seema Jagota 博士、適切な助言をくださった David Deamer 博士には心から感謝いたします。

この学会を開催するにあたり会場を用意してくださった河原林 裕先生には心から御礼を申し上げます。本年度からはポスターセッションが設けられており、学生にとってはオーラルセッションでは聞くことができないことも気楽に質問することができました。

第 38 回学術講演会に参加した感想：
学生にとって非常に参加がしやすくなった
学会
神戸大学大学院人間発達環境学研究所 卒
谷川能章

この度の学術講演会は、既に何人かの先生方がご好評していたように、新しい試みがあったため非常に学生にとって、参加のしやすい面白い会であったという印象を受けました。私は、初日のポスターセッションからの参加でありましたが、セッションがミキサーという形でご準備されていたため、参加早々に学会に積極的に向かう意欲が湧きました。口頭発表の後のポスターセッションは、発表がうまくいった学生にとっては、さらなる知見を広めるタイミング、発表が思うようにいかなかった学生にとっては、ある意味言い訳をするタイミングであったように感じられます。発表後の詰めた議論は非常に有意義だと思います。さらに今回のセッションは飲み物までもご準備いただいたので、非常にフランクに激論、討論を交わすことができたのではないかと思います。

今までの口頭発表のみの形式であると、発表後に発表内容について先生方、または他大学の学生とお話する機会があっても、資料や図を参照して具体的な議論ができないことが難点でした。しかし、この度のポスターセッションでは、発表資料を貼るだけという、発表者側にはさほど負担がかからない形で非常に効率のよい議論ができたと思います。ポスターのご準備をして下さったスタッフの皆様に感謝を致します。これからも生命の起原学会のさらなるご発展と、先生方、また学生方のご活躍を期待しております。